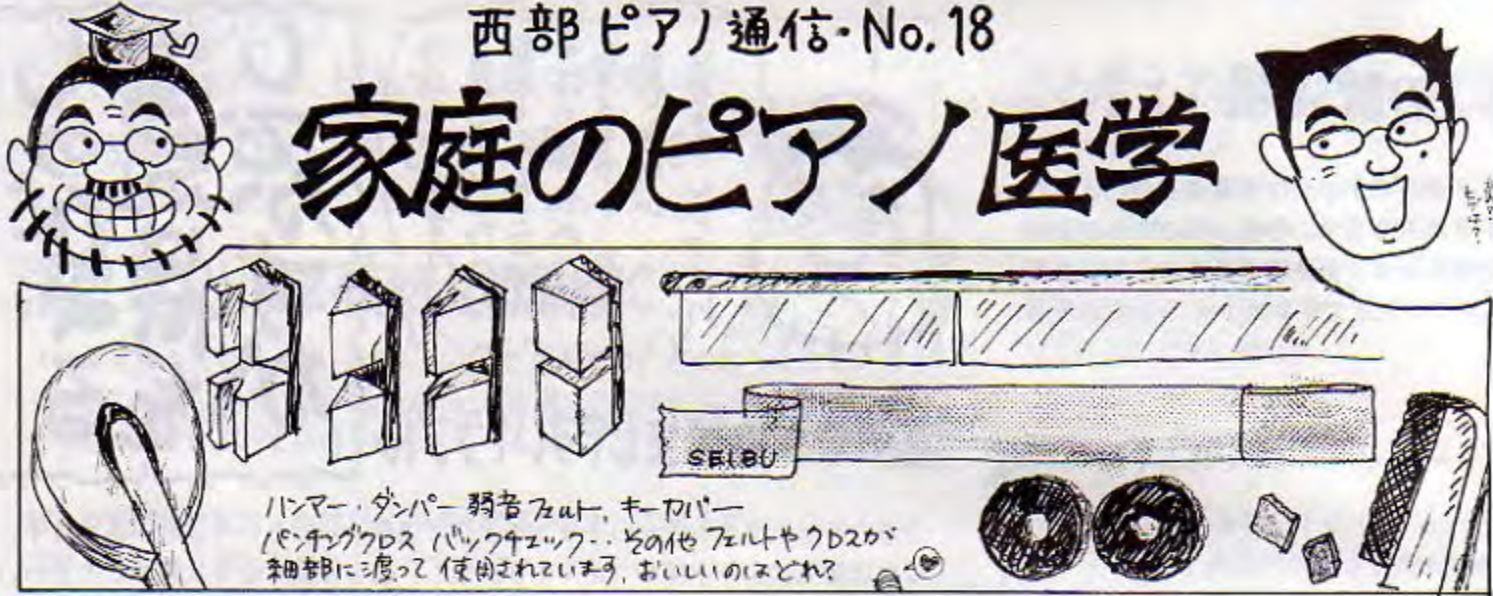


家庭のピアノ医学



害虫による被害

ピアノの中に寄生する虫はヒメカツオブシ虫などウールのたぐいを好んで食べる奴らです。ピアノ内部には彼らの好む素材を使ったフェルトやクロスが多く使われているため、食われてしまったらさあ大変!動作不良が起ってしまいます。

例: もしもここを食われてしまったら...

- ・鍵盤下のパンチングクロス→鍵盤の高さがガタガタになる。
- ・マフラーフェルト→マフラーペダルを使っても音が小さくならない
- ・ダンパーフェルト→止音不良が起こりペダルを踏んでないのに音が伸びっぱなしになる。

以上の点で、久し振りにピアノを開いてみたら虫食いの被害にあっており動作不良になっていたら演奏するのにすごく支障をきたすことが容易にわかり頂けるでしょう。

また、虫たちは春～秋にかけて活動をします。もし、ピアノの傍で成虫を見かけたらもうすでにピアノの中には虫たちの卵がうじゃうじゃしているかも知れません!!成虫は光に向かって屋外に出てきますが、幼虫は光を避ける性質があります。また一匹の成虫が産む卵は多いもので約130コです。(たいてい30~80コ)1年のうち一世代の虫もいれば、1年間で3~(多くて)6代の世代交代をする虫もいます。1世代40コ卵を産む虫が6世代も1年間で交代すればその卵の数はねずみ講式に膨れ上がります。鍵盤の数が88鍵だと考えるとその被害の大きさは想像に難くない...のです。



無視できない虫のおハナシ

害虫対策

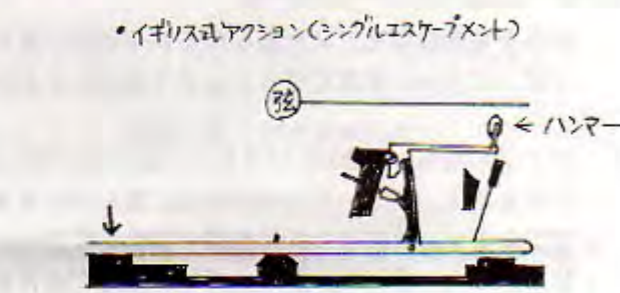
当社では調律でお伺いさせて頂いた際に必ずピアノの中をお掃除させて頂いております。その時に虫の死骸やフン、卵などを発見することがありますが、これらもきれいに除去させていただきます。虫たちはたまったホコリも好みますので、掃除機で吸い取り、ピアノをきれいにします。これでピアノを虫たちが寄り付きにくい環境にすることができます。また、防虫剤で殺虫することも可能です。市販されているものにはおいがキツくまた容量の大きいピアノでは長時間の効果が期待できません。当社調律師がおすすめる防虫剤は少量でにおいも少なく長期間(約1年)において効果が持続します。また、さなぎ化した幼虫に対し殺虫力が強く成虫する前に殺虫することが可能です。その他、演奏者自身で出来る対策としては天気の良い日に窓を開け、ピアノの天井や鍵盤蓋をあけて、こもった湿気を逃す事。オールカバーをかけたままにしない。除湿するなどがあります。こまめに換気することが大切です。



ウィーン式とイギリス式アクション

ピアノが発明されてから、およそ300年が経ちます。その発展途上の間に「ウィーン式」アクションと「イギリス式」アクションという大きく2つに分かれる時代がありました。およそ19世紀初頭の事です。

- ・ウィーン式……ドイツのヨハン・アンドレス・シュタインによるもの
跳ね上げ式ハンマーアクション
軽やかな特徴
・サロン音楽であったチェンバロ、クラヴィコードの流れを汲んでいる。
・モーツァルト、ショパン、ツェルニー、シューマン、メンデルスゾーンが好んでいた。
- ・イギリス式……ドイツよりイギリスに亡命したヨハネス・ツンペによる突き上げ式アクション
ウィーン式よりハンマーが重い
重厚なタッチ
・クラヴィコードの流れを継承している
・クラヴィコードにハンマーアクションを装置したものがスクエアピアノ(これを初めてソロ楽器として公開演奏したのがJ.C.バッハ。(J.S.バッハの息子))



ピアノという楽器は改良に改良を重ね、19世紀後半はショパンやリストが活躍する時代にほぼ現在のピアノのメカニズムの域に達しました。その後メーカーは質の向上に力を注ぐようになりました。ショパンとリストが活躍した時代には両方のアクションが存在し、ショパンはウィーン式アクションを、リストはイギリス式アクションを好みました。だいたいこの頃のピアノは82鍵でしたが、拡大された鍵盤数や音域を縦横無尽に駆使した最初の作曲家はリストでした。その後、ウィーン式アクションは、イギリス式アクションの方がダブルエスケープメント機構(同音連打が可能)を導入したことがきっかけでウィーン式の方にも取り入れざるを得なくなり、次第にイギリス式に統合されていく形となりました。そのため、現在のピアノはイギリス式アクションの流れを受け継いでいることとなります。現在多数のピアノ曲が残っておりますが、現在のピアノでその作曲家の意図を再現できるのはリストの曲以降ということになります。では、それ以前に存在した作曲家の作品で、有名なバイエル、ハノン、ツェルニーの練習曲はどうなるのでしょうか。数あるピアノ奏法のテクニックの内の一つとして、また和声の勉強として取り上げることは重要なことと言えるでしょう。

SEIBUPIANO・NOW

誠に恐縮ですが...
お客様にお願い致します

調律訪問ご予約頂きました誠にありがとうございます。近年、お客様の増加に伴い訪問をお待ち頂いておりますのも事実ですが、一方でご予約頂きました日の当日になりご連絡もない状態でキャンセルされる方も残念ながらいらっしゃいます。弊社ではおひとりでも多くのお客様宅にお伺いし1台でも多くのピアノの調律、メンテナンスをさせて頂くことにより、ご満足頂きたく考えております。万一、ご都合が悪くなりました場合は日程の変更をさせて頂きますので、出来る限りお早めに弊社までご連絡をお願い申し上げます。

当社オリジナル防音プレートを近日発売いたします。

ピアノを思う存分弾きたい、けれど音もれが気になって...そんなあなたに朗報です!

ピアノの音は壁や床や窓のガラスetc様々な固体振動を通したり、空気振動によっても伝えられてゆきますが、実はその殆どはキャスターを通じて床に伝わっているのです。このような特性をふまえ、只今開発中の当社オリジナル防音プレートはキャスターの部分からの振動を約70%もカット、階下に伝わる音をシャットアウトできます。また騒音レベルも25%カットすることが可能なので直接耳に聞こえてくる音もクリアなピアノ本来の音が聴こえてきます。防音室さえあれば音に対して気兼ねなくピアノを楽しめるのですが、いざ取り付けを考えると場所や費用面など何かと大変です。そこでこの防音プレートをお使い頂くと簡単にリーズナブルな防音効果を得ることができるのです。あとはカーテンを二重にする、サッシを二重にするなどの工夫で中の音がもれにくくなるだけでなく、外からの雑音なども入りにくくなり、練習にも集中しやすい環境となります。左右のキャスターに1枚ずつと、ペダルとイスの部分に1枚という3点セットにて近日発売の予定です。どうぞご期待下さい。また、防音室も従来のモノよりもより遮音性を高めて、尚かつリーズナブルなコストでの提供を目標に研究、開発中ですのでこちらの方もどうぞお楽しみに。



ここであらためて… ピアノに最適な環境は
温度 15~25℃ ・ 湿度 50~70%

湿気がひどいと弦切れの原因に。

「弦は切れるものです。」と言い切ってしまったら、不安になる方もいらっしゃることでしょう。弦は純度の高い炭素鋼で出来ており、温度変化で伸縮もすれば湿度によっては錆も発生することがあります。

切れる可能性はピアノが置かれている状況で変わってきます。では、どういう状況で切れてしまうのでしょうか？

ピアノの場合、約20tという張力で弦は常に引っ張られています。輪ゴムでたとえると、新しいゴムは伸縮性に富んでいますが、ずっと使っていると伸びてしまい、物によっては組織が劣化してプチンと切れてしまいます。弦も同じく、常に引っ張られている状態だと伸縮性が徐々に失われ、限界に近い状態まで来ると調律や、何かのちょっとした衝撃で切れたり、何もしてなくてもある日突然バン！という音を発して切れてしまうこともあります。また、ハンマーが硬化しすぎるとハンマーの打鍵の力で切れてしまうこともあります。特に金属は湿度や温度で変化しますし、錆がついていると金属が侵食されるためにもろくなります。

このような現象は新しい弦であっても起こる可能性があります。新しい弦も弦の質が悪い、張弦時に弦に傷を付けてしまった、ピアノ本体と弦の接触するところが尖っていて擦れる、などの要因で切れやすくなりますし、1本の弦切れを直さず放置しておいたためにピアノ本体の張力バランスが崩れ、他の弦に負担がかかり切れてしまうこともあります。

もしも弦が切れたら…

緊急事態です!!
即、ご連絡下さい!!

その際、どの音かお伺い致します。場合によっては右の弦か左の弦のどちらかをお調べ頂くこともございますので、お手数をおかけ致しますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

※断弦個所の張替後の処置について
張り替えた個所のみが新しい弦となるため伸縮性に富むので狂いが大きく、全体的なバランスも大きくはありませんが、狂いが出る可能性があります。その為、ピアノの特性にもよりますがだいたい1ヶ月後に張り替えた弦だけを調律する必要があります。音が出ないと言う問題以上にバランスの狂いが大きな問題となりますので、弦切れの場合はすみやかな処置が望ましいのです。

よく考えて使いたい、内蔵タイプの除湿機

ピアノは湿気の影響を受けにくい場所に置くべきなのですが、住宅事情その他により極度に湿気の高い場所に設置せざるを得ない場合があります。そのような時の湿気対策としてピアノ本体に内蔵する専用除湿機「ドライエル」を使用することがあります。しかし100%の過信は禁物。使用にあたってはメリットとデメリットをきちんと理解しておくことが大切です。

「ドライエル」について

- メリット……
- 湿気を確実に除去できる。
 - センサーが付いており、湿気が高くなったら作動する。
 - 乾燥剤だけでは直り切らないスティックが直る効果が高い。
 - 年間を通して効果が均一。
 - 乾燥剤は1年経つ頃に効果が薄れてくる。
 - センサーが付いているため経済的にも節約できる。
 - 簡単に取り付けられる→画鋲で取り付けだけ。
- デメリット…
- センサーが作動すると熱が発せられるためピアノが暖められてしまい、音の狂いが大きくなる。
 - センサー付でないタイプの場合、過乾燥を招く。湿気を吸い取るだけの役割のため、※過乾燥になると木部の水分がなくなり大切な響板にヒビが入る原因となる。
 - 整調が狂いやすくなる。
 - 雑音が出る可能性がある。
 - ピアノの近くにコンセントが必要。
 - 機種によっては取り付けができないことがある。
 - 湿度の微調整が難しいので乾燥剤も入れておく方が良い。
 - コンセントに差して、常に通電させていなければならない。

「デメリット」からおわかり頂けると思いますが、湿気対策としてドライエルを使用したところ、今まで何の問題もなかった筈のところから新たなトラブルが引き起こされる可能性もあるのです。

それでもドライエルを取り付けるのであれば、一緒に乾燥剤を入れておくことをお勧めします。当社の取り扱っているピアノ専用の乾燥剤は湿度を約60%に保つことができます。

もともとピアノは湿気の少ないヨーロッパで製造、改良されきたもの。日本の気候に合わせて作られた国産ピアノであっても、弊害がでてきます。まずはピアノにとって良い環境作りを心掛けてください。



ちなみに…

暖房より冷房の方がピアノには快適♡

湿度が下がって気持ち良くなります。

湿気のため発生しやすいトラブル

多湿な季節に発生しやすいトラブルとしてスティックという症状があります。これは湿気により木部やフェルトが膨張し、動きが悪くなる状態のことをいいます。よく「鍵盤が動かない」とか「鍵盤は動くけど音が出ない」など言われる症状がこれに当たります。

演奏に支障が出ますのでこの時期少しでもおかしいな、と思ったら直すべきです。ほっておくと慢性的になり思わぬ修理金額がかかったりすることがあります。

また湿気が多いと錆やカビが発生しやすい状況となります。

錆が発生する場所としては弦、スプリング、その他の金属部分などがあります。錆の種類も数種類あり、よく見られるものに赤錆、黒錆、青錆があります。錆が進行していくと、弦が切れる可能性が高くなったり、蝶番が動かず、鍵盤蓋、天屋根の開閉が困難になったりします。

カビは内装に出現することが多く、白いフワフワ状のものが点々と出ます。湿気で木部が膨張すると上記で述べましたが、実は外装自体、木でできているため湿気でふやけて反り返り、取り外し困難になることがあります。(外側は塗装されている為、湿気を吸いにくいのですが、内側は生地のままなので吸収しやすく、その差がよけいにその原因になりやすいのです。)

気を付けたい、床暖房とエアコン

また、近年床暖房を備えた住宅が増えつつありますがこの床暖房もピアノにとっては大敵です。急な温度変化に弱いピアノは床暖房を使用される度に暖められて弦の伸縮が激しくなり、音の狂いが大きくなるのです。できればピアノは床暖房のない部屋に設置しましょう。

エアコンについても同じこと、できればピアノに直接風が当たらないようにし、大きな湿度変化や過乾燥を起こさないように気を付けます。ピアノを設置してある部屋は使う時も、使わない時も、同じような状態を設定するのが良いのです。



STEINWAY & SONS

スタインウェイ アンド サズ (ドイツ)

初代ハインリヒ・エンゲハルト・シュタインヴェーグ (1797~1871) は家具職人として働く内に楽器を作るようになり結婚した時妻に、すべてを自作したピアノを贈りました。この第1号のピアノは貧乏な2人が食べるために売却されましたが大変評価が高く、すぐ買い手がついたそうです。その後もコツコツと名器を作り続けた彼は、息子の勧めでアメリカに渡り、ニューヨークに工場を開き、名前をヘンリー・E・スタインウェイと改めピアノ製作を再開しました。これがニューヨークのスタインウェイの始まりです。後に彼の息子がドイツに戻り製造を始めたのがハンブルグスタインウェイとなりました。

また、ドイツに「グロトリアン・シュタインヴェーグ」というメーカーがありますがこれはドイツのブランズウィックにあったスタインウェイの前身会社が弟子に売却されたもので、今なお堅実な製品を生み出しています。

問4, 韓国・中国

ピアノのメーカーが生産を行っている国はヨーロッパ・アメリカ・日本だけではありません。現在急成長中の韓国や中国のピアノもあります。今まではどうしても質の面で他の生産国より劣っており、トラブルも多かったのですが、なかなか目にする機会はありませんでした。最近日本やヨーロッパの優秀な技術者・指導者が韓国や中国に出向され、その質は向上しつつあります。その反面海外のメーカーや日本のメーカーも中国などに工場を持ち、国内の工場を閉鎖しているところが多くあります。今後韓国や中国の経済成長に伴い、さらに所得の低い東南アジアに拠点を移行することが考えられますので、アジアのピアノ産業にも注目する必要があります。海外に生産を依存する現状を思うと、ピアノだけに限らず日本から本物の職人がいなくなる日が来るかも知れません。それだけはなんとしても避けたい事です。当社の「オリジナルピアノの製造」の動きはこの思いがきっかけでした。

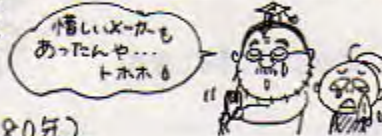
次の問いに答えなさい

- 問1, 現在国内のピアノメーカーは何社あるか。
- 問2, 日本でピアノが最も多く生産された年は?
- 問3, 現在日本のピアノメーカー各社が取り組んでいることは何か。
- 問4, 現在ピアノメーカーが急成長しているアジアの国を2つ答えよ。

●解答と解説●

問1, 7社 (大手メーカーも含む)

ピアノのメーカーが一体どのくらい存在するのは皆さんあまりご存知ではないかと思えます。現在国内で生産しているメーカーは大手を含め7社です。数十年前は四十数社存在していましたが今ではたったの7社となってしまいました。ピアノが飛ぶように売れた時代は終りを告げ、吸収合併されたり、廃業したり、また後継者に恵まれず...など様々な事情が存在をさまたげたようです。昭和60年頃には倒産が相次ぎました。



問2, 昭和55年 (1980年)

昭和21年の年間生産台数はわずか24台、しかし29年にはついに1万台を突破、43年の高度経済成長期21万台、48年のオイルショック・ピアノ殺人事件を機に一時伸びが止まるが、55年には39万台に達しました。この時代にピアノを習っていた(習わされた?) 子供たちも今では20~30代、この世代の方々の子供さんがピアノを習う位の年齢となりました。そんな子供さんのために長い眠りから目ざめたピアノも現在は増えています。

問3, 新デザインの開発・リニューアル

残念ながら最近のメーカーの目は海外に向いているのが現状です。日本ではグランドピアノしか今後は売れないと豪語するメーカーもあるくらいです。今お持ちのピアノの再生に取り組んでいるメーカーも数少ないのが現状ですが、国内では再利用の為のリニューアルの要望が増えているのも事実です。日本でピアノが製造されるようになった頃は今のようなシンプルな形ではなく家具調の一見おしゃれ(?) なタイプも存在しましたが、いつしか皆さんおなじみの黒色のシンプルな形が定着してしまいました。でも最近は住宅や家具の事情からインテリア色の強い木目調のピアノが増えています。もっとおしゃれな形や色々カラーがあっても良いはずですよ。エアコンでさえ、色を選べる時代です。

当社は! 塗装の色目やパーツのデザインを変えてオリジナルカラーを出さずして「黒」色でシンプルだったピアノを「世界でたったひとつしかないピアノ」にしたいと考えています。99%のピアノメーカー、機種はありますが日本での主流は黒色のシンプルなもの。それがデコレーションされてインテリア度がアップすればピアノの主役となることか可能なのですよ。私達は、ピアノのおしゃれ化に力を入れています。



ピアノおしゃれ主義進行中!!

当社ホームページ▶ <http://www.seibupiano.com>

お客様納得窓口▶ 0120-7109-89

ご意見・ご相談・ご苦情などはこちらまで

東京事務所が移転致しました。
〒141-0031 東京都品川区西五反田7-22-17 TOCビル 4階
TEL 03-6420-2110 FAX 03-6420-2117
ショールームとしての機能を十分に備えております。
お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さいませ。

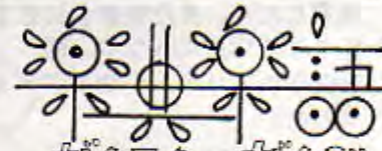
ベリーの黒船から二年、日本が長い鎖国を終えようとしていた頃、山葉寅楠は紀州徳川家天文係山葉考乃助三男として生まれた。父考之助は土木、測量などにも通じる万能の技師であったため、寅楠は幼い頃から西洋の科学技術に親しみ、機械いじりにも興味を覚えていた。武芸にも優れ、小野派一刀流の達人であったという。

十七歳の時、鳥羽伏見の戦いに敗れた彼は、藩の方針に背いたことから父に勘当され、武士の身分を捨て、母方に預けられ塾生の身となってしまった。不自由で退屈な生活から逃れるべく寅楠は大坂へと向かった。普及の兆しを見せていた懐中時計に目をつけた彼は二年程時計商に徒弟として奉公したものの、修理以外の技術を得られなかったため、長崎へと向かいイギリス人の元で製造技術と商売をおよそ5年間に渡って学んだのであった。大阪で時計店を始めようとした寅楠だったが資金がなく、器械器具の修理をする渡り職人となった。やがて大和高田で時計商を開業、母方が医者であった関係で医療機器の修理なども兼ねることになった。

しかし開店のため貯金を使い果たし、経営資金に困った彼は賭博に走って大失敗、夜逃げの如く大和高田を後にし、再び渡り職人に戻り、一八八六年東京へと向かったのがあった。しかし急激に近代化の進んだ東京に彼の居場所はなく、コレラの流行もあって、再び西へと向かった。その時、かつての奉公先から依頼されていた医療器械の修理のため浜松にある浜松病院に立ち寄った。そこで院長の福島豊策と意気投合し福島島の知人、茶商の樋口林治朗とも親しくなり浜松に足をとどめることになった。医療器具やその他の修理をしながら一年が過ぎた頃、樋口を通じて浜松尋常小学校のオルガンの修理が依頼された。生まれて初めてオルガンを見た寅楠だったがすぐに仕組みを理解してあっさり直してしまっただけである。「これと同じ物を作ればもうかる」と彼は考えた。(続く)

音符群の反復に関する記号

・同じ音の反復... 同じ音を繰り返して演奏する時には次のように記します。



「まだあるぞ、略記法」

この表記を見ると考えた人はエライって思うな。DやGあたりは特にね!! 次回「同じ音形の反復」について勉強しよう



日々調律は大切です!! 3ヶ月後をどうかお忘れなく...

調律をしなければいけないのは判っているが、実はどのくらいの期間で調律したらいいかはあまり認識されていないのではないのでしょうか? 音の高さを表す単位として「セント」という単位があります。だいたい毎年、1年に1回の定期調律をしているピアノでは、1年間で2セントくらいの狂いができます。長期間に渡って調律をしていなかったピアノの場合、およそ20セントの狂い、あるいはひどいものではそれ以上の狂い(極端な例では「ド」が「シ」になる)も時折り認められます。つまり定期調律をしているピアノの10倍~30倍位あるいはそれ以上も狂っているということになるのです。ですから久し振りに調律するとすれば基準音を440Hz (4セント=1Hz) に設定するために弦を相当引き上げなくてはなりません。ところが弦はゴムのような特性を備えています。一度大きく引っ張ると、その反動でまたその分大きくのびようとします。従って久し振りの調律でなんとか440Hzに達したとしても維持できる期間は定期調律を行っているピアノに比べるとはるかに劣ります。また弦にとってもその動きは負担が大きいため、その時は幸い弦が切れなかったとしても1年置いて次の回にまた相当の引き上げを行うとすれば、今度は弦が切れる可能性が高くなります。このように高いリスクを伴う「20セント上げ」を毎年繰り返したとしても440Hzの安定維持への道程ははるかに遠く調律をした意味がうすれてしまいます。その為、大きく狂う前に再度調律をして上げ下げの少ない幅をだましまし作っていく必要があるのです。

長年調律していなかったピアノはとりあえず音が良くなったからといって安心せず、3ヶ月経った時点で「リハビリ」としての調律をすることが大切なのです。